

第1学年 生活科学習指導案

- 1 単元名 「なかよし いっぱい だいさくせん」
～歩いてみよう！ぼくらの通学路～

2 目 標

- 通学路や学校の周りの様子に関心を持ち、楽しんで歩いたり、調べたり、観察したりすることを通して、自分の通学路について考え、安全な登下校ができる。
＜関心・意欲・態度＞
- 自分の通学路や友だちの通学路を歩き、そこで出会う人々や自然、安全のための設備などを言葉や絵で表現することができる。
＜思考・表現＞
- 通学路で出会う人々や自然、安全のための設備などに気づき、安全な登下校にはどうしたらいいか考えることができる。
＜気づき＞

3 指導にあたって

このような子どもだから

- 本学級の子どもたちは、送り迎えだった保育園・幼稚園を卒園し、学校まで自分の力で登下校できるようになっている。また、途中で見つけた草や花を持ってくるなど、登下校を楽しんでいる。しかしほとんどの子どもたちが、自分の登下校の道しか知らず、また、とても校区が広いので、お友だちがどんな道を通っているのかなど、通学路の様子が違うことを知るにはいたっていない。
- 子どもたちは、これまでに学校探検やアサガオの栽培の学習を通して見つけたことを絵や文にしたり、発表したりする活動をしている。しかし、自分で調べたり、気づいたことを整理して表現したりする学習経験は少ない。
- 子どもたちは、登下校を通して、横断歩道に校長先生が立っているこ

このような活動で

- 本単元は、家と学校をつなぐ通学路の様子を見つめる学習である。通学路の様子を見つめる中で、動植物をはじめとする自然や、そこで出会う人々に気づき、安全な登下校ができるようにすることをねらいとしている。
- 1年生の子どもたちにとって、通学路は毎日通る道であるため、出会う設備や人々が安全を守ってくれていることに気づいていない。そこで自分の通学路を紹介したり、標識などがないか自分の通学路を振り返ったりするなど、具体的な活動を通して、自分の通学路にある自然や人々の様子に気づかせたい。
- 「深める」活動では、校区の特徴的な3つのコースを歩き、通学路の様子に気づかせる過程を大切にしたい。そして自分の通学路との相違点を見つけた喜びや充実感を味わった

とや、自分の家族が旗当番で立っていることに気づいている。また交通教室を通して、横断歩道の正しい渡り方などにも気づいている。しかし通学路における危険な場所や、通学路で出会う人々が、自分たちの安全を守ってくれていることには、気づいていない。




子どもたちは、「こんなところがいいな。」「安全を守ってくれてありがとう。」という気持ちを持って、安全な登下校ができる考える。



- 子どもたちが通学路を見つめ直し自然や安全を守っている人々などを再発見する活動は、よき生活者を育てていく上で価値ある学習であると考ええる。





このような支援を

- 単元に入る前に、朝の会などを使って、通学路で出会った自然や人々を紹介し、子どもの意識が通学路の様子に向くようにしておく。また子どもが通学路を見つめなおしやすいように、学年便り、懇談会等で事前に学習の趣旨を説明し、協力をお願いしておく。
- 導入の場面では、教科書の絵を見せ、通学路における事故やお家の人に注意するように言われている箇所など学校の周りの様子について出し合い、通学路についての関心を高めさせる。
- 自分の通学路を振り返る活動では、出会った人々や自然、設備をカードに書く活動を入れ、何気ない通学路のなかのお気に入りの場所や新しく発見したことなどを書いて、自分の通学路の様子に気づき、友だちと交流することで様々な通学路に気づかせる。また、通学路の違いについては、「自分とはちがうな。」「こんな場所があるのか。」など、様々な通学路があることを認め、それぞれのよさに目を向けることができるようにする。
- 自分の通学路を紹介する場面では、自分のお気に入りの場所や、見つけたものなどをグループで交流することで、どの子も安心して活動できるようにする。また国語の「はっきりはなそう みんなにしらせたいこと」の学習との関連を図り、発表の仕方や質問の言い方などの指導も行い、生活科の指導の効果を高めるようにする。
- 「歩いてみよう 通学路」の活動では、コースを歩く前に、そのコースを通学路としている子どもに通学路で出会う自然や人々を紹介する「CMタイム」をとることで、学校の周りの様子に関心を持たせ、活動への意欲を高めさせる。
- 活動後も、家庭や地域と連携を図ったり、他領域との関連を図って新たな刺激を与えたりして、「安全な登下校」を家庭でも学校でも継続的に取り組んでいけるようにする。

4 活動計画 (全9時間 [国語 2時間])

	活動と内容	指導上の留意点 (※評価)
つ か む 2 時 間	<p>1. つうがくろってどんなみち？</p> <p>(1) 教科書P22を見て、気づいたことや、自分が通って来ている通学路について話し合うことで、通学路について関心を持つ。①</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>公園があるね。わたしの通学路にもあるよ。</p> <p>工事してるよ。おじさんがあぶないって教えてくれてる。</p> <p>旗当番でお母さんが立ってたよ。</p> <p>信号のない危ないところにもいたよ。</p> <p>いろいろな通学路があるんだね。ぼくの通学路にはどんなものがあったかな？歩いて確かめてみよう！</p> </div> </div> <p>(2) 話し合ったことをもとに、自分の通学路を歩く。(課外 登下校時)</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>あ！こんなところに止まれのマークがあった！</p> <p>ここで魚を見つけるのが楽しいんだあ。</p> </div> </div> <p>(3) 通学路を歩いてみて、みんなに伝えたいことを発表する。①</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>わたしの通学路は道がせまいから、ガードレールがありました。(例)</p> </div> </div>	<p>○ 子どもが登下校の際、見つけたもの話や、教師が用意した通学路のクイズから通学路の様子について関心を高めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の絵から分かること ・自分の通学路と比べてみること ・通学路の各コースがわかる地図を掲示し、子どもの話とつなぎながら通学路によって様子が違うことに気づかせる。 <p>○ 自分たちの安全を守るための設備があることにも気づかせ、もう一度自分の通学路を歩いて確かめたいという意欲を高めさせる。</p> <p>※ 教科書から通学路について分かることや、自分の通学路について話したり、考えたりしている。(関)</p> <p>○ 「見つけたよカード」を準備しておき、自分の通学路で見つけたことを朝の時間や宿題などで書かせておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの場所 ・交通の標識 ・自然 <p>※ 自分の通学路の気づきを話したり、カードに書いたりしている。(思・判)</p> <p>○ 見つけたよカードをもとに、自分の通学路でお気に入りの場所や、見つけたことをグループで発表しあう。</p>

	<p>友だちの通学路にもいろんなものがあるんだなあ。見てみたいな。歩いてみたいな。</p>	<p>※ 気づきを絵や言葉で表し、伝えあっている。(気づき・表)</p>
<p>深 め る 3 時 間</p>	<p>2. みてみよう あるいてみよう ぼくらの つうがくろ</p> <p>(1) ○○方面を歩き、通学路の様子を調べる。①</p> <p>車がいっぱい通るから、横断歩道があるんだね。</p>  <p>田んぼがあるね。虫はいるかなあ。</p> <p>飛び出したらあぶないから、信号がついているね。わたしの通学路にも信号が3つあったよ。</p> <p>(2) □□方面を歩き、通学路の様子を調べる。①—(本時)</p> <p>○○方面と違って、横断歩道や信号がないね。車も少ないね。</p> <p>小さな川があるね。魚はいるのかなあ。</p>  <p>学校を出てすぐに、公園があるね。遊んでみたいな。</p>	<p>○ コースを歩く前に、そのコースを通学路としている子に通学路における様子をクイズ形式で紹介する「CMタイム」を設け、意欲を喚起させる。</p> <p>○ 歩く前に「たんけんのルール」を確認し、安全面に配慮する。</p> <p>○ 横断歩道や信号など通学路の様子を見て、自分の通学路との相違点や安全への気づきを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横断歩道がたくさんあること ・信号があること <p>※ ○○の通学路を安全に歩き、学校の周りがある自然、安全を守っている設備や人々に気づくことができる。(気づき)</p> <p>○ ○○方面とも比較しながら、通学路の様子に気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信号や横断歩道が少ないこと ・道が狭いこと ・お家のお花や木があること <p>※ □□の通学路を安全に歩き、学校の周りがある自然、安全を守っている設備や人々に気づくことができる。(気づき)</p>

	<p>(3) △△方面を歩き、通学路の様子を調べる。②</p> <p>川があるよ。魚はいるのかな。</p> <p>歩道橋があるよ。車が多くて危ないからかな。</p> <p>橋は大きいね。ここから川を見ると気持ちいいね。</p> 	<p>○ ○○方面や□□方面と比べながら、通学路の様子に気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道橋があること ・大きな川や橋があること <p>※ △△の通学路を安全に歩き、学校の周りがある自然、安全を守っている設備や人々に気づくことができる。(気づき)</p>
<p>ふりかえり</p> <p>3時間</p> <p>国語2時間</p>	<p>3. たのしいな あんしん あんぜん ぼくらの つうがくろ</p> <p>(1) 探検のまとめをし、自分の通学路を見なおし、発表する。③</p> <p>お母さんたちが、ぼくたちの安全を守るために立っているのを、初めて知りました。</p>  <p>通学路にこんなに安全を守ってくれるものがあるって知って、嬉しかったです。</p> <p>学校のまわりに、田んぼや川があったね。川を見るのがもっとすきになりました。</p> 	<p>○ 校区を歩いて、新しく知ったこと、見つけたことなど自分の通学路の振り返りを行う。</p> <p>○ 国語の「みんなにしらせたいこと」の学習を活かし、指導の効果を高める。</p> <p>※ 自分の通学路で出会う自然や安全を守っている人々、設備などを言葉で表現し、話すことができる。(思・表)</p>
	<p>(2) 安全な登下校について考える。①</p> <p>止まれマークがあったら、ちゃんと止まって車に気をつけよう。</p>  <p>明日からお母さんたちやおじいちゃんに会ったら、元気にあいさつしたいな。</p> <p>(3) 安全な登下校をする。(課外)</p>	<p>○ 自分の通学路には、安全を守っているものがあることに気づき、これからは安全な登下校をしようという意欲を高める。</p> <p>※ 安全な登下校にはどうしたらいいか考えることができる。(気づき)</p>

5 本 時 平成20年10月20日(月) 5校時 体育館に於いて

6 本時の目標

- □□の通学路を安全に歩き、学校の周りにある自然、安全を守っている設備や人々に気づくことができる。

7 本時指導の考え方

本学級の子どもたちは、これまでに教科書を見て気づいたことや、自分が通ってきている通学路の様子について話し合うことを通して、いろいろな通学路があることや通学路によって様子が違うことに気づき、学校の周りの様子を目を向けることができている。また登下校の際に出会った自然や安全を守っている人々・設備を「見つけたよカード」に書きまとめ、自分の通学路を振り返り、自分の通学路の様子に気づいている。さらに、友だちの発表を聞くことで、「友だちの通学路を歩いてみたい。」という気持ちを高め、『みてみよう あるいてみよう ぼくらのつうがくろ』を実践中である。

本時は、『みてみよう あるいてみよう ぼくらのつうがくろ』の2時間目、『みてみよう あるいてみよう ○○○のつうがくろ』の場面である。この活動を通して、○○○の通学路にある自然、安全を守っている設備や人々に気づくことで学校の周りの様子を知る活動の広がりや深まりをねらいとしている。

そこで、本時では、□□コースを通学路にしている子どもに□□コースで出会う自然、安全を守っている設備や人々を紹介する「CMタイム」を設け、活動への意欲を高めさせる。その後、「安全の約束」を確認し、グループで□□コースを歩き、学校の周りにある自然、安全を守っている人々や設備に気づかせる。

また、全体交流では、□□コースで見つけたものや感想を発表する。その際、前時で歩いた○○方面と比較し、「□□コースには川があった。」など□□コースの特徴にも気づかせる。また、○○方面と同じように、安全を守ってくれるものがあることにも気づかせる。




そして、学校の周りの様子や安全への理解を深め、次時の活動へとつなげていきたい。

8 準 備

(教 師) 掲示物 見つけたよカード

(児 童) 帽子 筆記用具 色鉛筆

9 本時の展開

活動と内容	指導上の留意点・支援 ※評価
<p>1. これまでの学習を振り返り、本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みてみよう あるいてみよう □□コース</p> </div> <p>(1) CMタイムをする。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>バナナコースは、道が狭いよ。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-right: 10px;"> <p>学校出てすぐに、ぼくがいつも遊ぶものがあるよ。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-right: 10px;"> <p>道路に大きい標識があるから、見つけてね。</p> </div>  </div> <p>(2) 探検の約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はぐれない。 ・一人にならない。 ・車に気をつける。走らない。 ・時間の確認 など <p>2. □□コースを歩く。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>道がせまいね。1列になって歩こう。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-right: 10px;"> <p>公園があるよ。遊んでみたいね。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-right: 10px;"> <p>ここにもたんぼがあるよ。○○コースにもたんぼがあったよね。</p> </div> </div> <p>3. 本時学習をふりかえる。</p> <p>(1) 見つけたよカードを書く。</p>	<p>○ 見つけたよカードをもとに標識や通学路の様子をふりかえる。</p> <p>○ □□コースを通学路にしている子どもに「CMタイム」を使って、□□コースにどんなものがあるか紹介させ、活動への意欲を高めさせる。</p> <p>○ 安全に歩くにはどうしたらよいか考えさせ、「はぐれない」「一人にならない」など安全面に留意させる。</p> <p>○ 準備ができたグループから、出発させる。</p> <p>○ 安全に関する声かけなどを行い、気づきを高めさせる。</p>

(2) 気づいたことを出し合う。



止まれがあったから、気をつけたよ。

川があって、虫が水浴びしてたよ。

□□コースには、公園や田んぼがあったね。□□コースは道が狭くて、危ないところもあったけど、マークや旗を持ったおじいちゃんがいて、安全を守ってくれているんだね。

○ ○○コースとも比較しながら、□□コースの様子に気づかせる。

- ・□□コースには、川があった。
- ・□□コースには、○○コースと同じように、安全を守ってくれるものがあった。

など

※ □□の通学路を安全に歩き、学校の周りには自然、安全を守っている設備や人々に気づくことができる。
(気づき)